



ニッセンケンの試験メニューを
世の中のいろいろな話題と自由きままにミックス!



COLUMN 試験担当者のひとり言

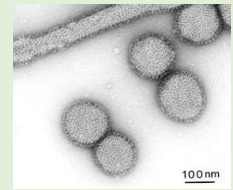
お役立ちな独白 1 インフルエンザとノロウイルス感染症

2025.1.24

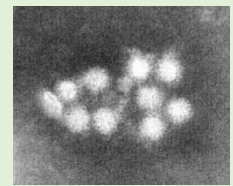
秋冬からはインフルエンザとノロウイルスに注意

冬になると、毎年のようにニュースで注目される「インフルエンザ」と「ノロウイルス感染症」。皆さんは罹ったことがありますか？ 私も子供の頃に感染したことがあります。インフルは高熱でうなされ、ノロウイルスは上からも下からも… 数日は動けなくなりますよね。どちらもホントに大変でした…

ただ、新型コロナウイルスが発生してからインフルエンザウイルスやノロウイルスの存在感は少し薄れてしまったように感じています。インフルエンザはコロナ禍でいったん落ち着いたものの、2023-24年シーズンには再び流行しています。そこで、インフルエンザとノロウイルスについてちょっと一緒に復習してみませんか？ より快適に生活をしていくためにどんな工夫ができるのか、皆さんと共有していきたいと思います！



インフルエンザウイルスの電子顕微鏡写真(感染研 HP より引用)



ノロウイルスの電子顕微鏡写真(感染研 HP より引用)

インフルエンザ

流行しやすいのは A 型インフルエンザと B 型インフルエンザ。特に A 型インフルエンザウイルスは変異を起こし免疫ができづらく、約 100 年の間に世界的パンデミックを何度か引き起こしてきました。

咳やくしゃみの飛沫による「飛沫感染」や、唾液や鼻水がついた手指からドアノブなどを介した「接触感染」によりうつります。消毒用エタノールの使用が効果的で、ワクチン接種での予防も期待できます。

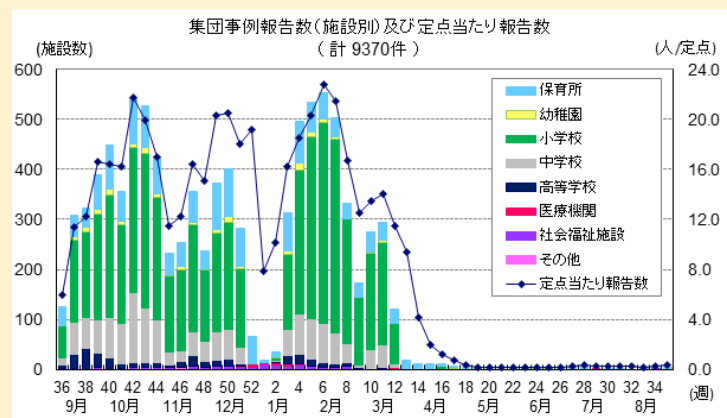
東京都感染症情報センターによると、昨年度は例年よりも早く 9 月から流行し始め、集団感染事例では小学校が最も多い場所となりました。A 型も B 型も、保育所や学校施設で多く発生しています。お子さんと難しいかもしれませんが、咳やくしゃみ対策はもちろん、ウイルスがついた手指を介した「接触感染」にも気を付けねばなりません。



飛沫感染



接触感染



インフルエンザの集団感染発生状況(2023-24年シーズン;東京都感染症情報センターHP から引用)

ノロウイルス

汚染された食べ物を摂取することによる「経口感染」、手やドアノブなどを介した「接触感染」で広まります。吐しゃ物や糞便から「飛沫感染」することもあります。

食中毒事例のうち約 7 割は原因が特定できないようですが、ノロウイルスの集団感染事例は冬季に集中しています。乾燥や熱に対して比較的強く、死滅させるためには食品の中心部 85℃・1 分間以上の加熱が必要です。エタノール消毒薬への効果も期待できません。これは、「エンベロップ」と呼ばれるウイルス表面の膜構造の違いによるものと言われてしています。家庭では、0.02%～0.1%の次亜塩素酸ナトリウム水溶液が有効とされていますが、肌荒れ等が心配されるため人肌に対しては使いにくく、塩素のおいも気になります。基本的な対策は、『十分な加熱』、『入念な手洗い』、『汚染物からウイルスを広げないこと』に尽きます。



経口感染

接触感染



飛沫感染

抗ウイルス加工製品で ”清潔” な生活空間を

インフルエンザウイルスとノロウイルスはどちらも「接触感染」によりうつることがあります。そこで私がおすすめするのが、**抗ウイルス加工製品**。特に認証マークが付いた製品が良いでしょう！

ニッセンケンでは実際にウイルスを使用し、その評価試験を行っていますが、一般的に「A 型インフルエンザウイルス」または「ネコカリシウイルス(ノロウイルスの代わり)」を使用します。^{注1、注2}

まさに、今回取り上げたウイルスが対象となっているのです。抗ウイルス加工製品は肌着やハンカチなどの衣類、フィルムや手すり、日用品などの**プラスチック製品**で数多くの認証登録がなされています。

人類は、ウイルスに限らず、細菌などの微生物は共存していかなければならない存在です。とは言っても、私たちの環境をより“清潔”に保つための工夫は積極的に取り入れていきたいですね。

皆さんもこれらの製品をぜひ取り入れてみてはいかがでしょうか。そして手洗いとうがいの忘れずに！

今回始まったコラム「試験担当者のひとりごと」では、ニッセンケンの社員が変わるがわる、生活に役立つ様々な話題をお届けしていきます。ぜひ次回もお楽しみにしてください。よろしくお願いします！！

(注 1): 製品にウイルスの名前を記載することは認められていないため、認証マークにはウイルス名が記載されていません。

(注 2): ノロウイルスの培養は難しいため、一般的に同じ科に属する性状の似たネコカリシウイルスを使用します。



フィルム、ケース、化粧板、印刷物



壁紙、塗料



革製品、合皮、シート



マスク



寝具、ハンカチ等の繊維製品



ひとりごと執筆担当：ライフ アンド ヘルス事業本部 バイオケミカルグループ一同 [ご質問はこちらからどうぞ！](#)